

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
平成29年度研究開発実施報告書

「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」

研究開発領域

「高齢者の詐欺被害を防ぐ

しなやかな地域連携モデルの研究開発」

研究代表者氏名 渡部 諭
(秋田県立大学、教授)

目次

1. 研究開発プロジェクト名	2
2. 研究開発実施の具体的内容	2
2 - 1. 研究開発目標	2
2 - 2. 中間達成目標	2
2 - 3. 実施内容・結果	3
2 - 4. 会議等の活動	12
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況	15
4. 研究開発実施体制	17
5. 研究開発実施者	20
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など	22
6 - 1. シンポジウム等	22
6 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	22
6 - 3. 論文発表	22
6 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	23
6 - 5. 新聞報道・投稿、受賞等	23
6 - 6. 知財出願	24

1. 研究開発プロジェクト名

高齢者の詐欺被害を防ぐしなやかな地域連携モデルの研究開発

2. 研究開発実施の具体的内容

超高齢社会の問題である特殊詐欺被害や高齢消費者被害は、有効な対応策が見出されないまま被害が深刻化している。本プロジェクトでは、認知バイアスを個々の高齢者について心理学や神経科学を応用したICTツールである詐欺被害脆弱性判定ツールによって把握し、詐欺脆弱性予測に基づくオーダーメイドの被害防止策を提供する。その場が、国・警察・司法・自治体等「公」空間と高齢者の日常生活である「私」空間をつなぐ「間」に構築される地域ネットワーク(=しなやかな紐帯)である。ここでは更に、高齢者の生活全般への目配りにも配慮し、生活全般の改善にも努める。

2 - 1. 研究開発目標

- (1) 健常高齢者及び認知機能低下高齢者の心理特性が詐欺被害脆弱性に及ぼす影響の評価
- (2) (1)の知見を統合した詐欺脆弱性判定ツールの開発
- (3) 詐欺脆弱性判定ツールを二つのフィールドで運用及び改良
- (4) 社会資源の異なるフィールドに適した地域連携ネットワークを構築しセルフディフェンス力の向上
- (5) 地域連携ネットワークの運用による詐欺・悪質商法被害防止に対する政策提言
- (6) 二つのフィールドで詐欺被害金額の減少(前年度比20%減)

2 - 2. 中間達成目標

- (1) 高齢者の生活実態と詐欺脆弱性調査の実施。(健常高齢者対応グループ)
「採択に際しての留意点」で指摘されたように、高齢者の生活全般への目配り・改善を図ることを目的に、具体的に高齢者の生活のどのような点に注目すべきかについてデータを得る。平成29年11月に秋田県立大学人を対象とした研究実施計画審査へ申請し、平成30年1月に秋田市で調査を実施する。
- (2) 小賀野プロジェクトとの連携構築。(健常高齢者対応グループ、認知機能低下高齢者対応グループ、実装グループ、個人情報検討・政策提言グループ)
「採択に際しての留意点」で指摘されたように、小賀野プロジェクトとの連携会議を開催する。
- (3) 詐欺脆弱性診断マトリクス(健常高齢者版)の完成。(健常高齢者対応グループ、実装グループ)
詐欺脆弱性質問紙(健常高齢者版)作成のために、平成29年10月から質問項目の検討・選定を行う。続いて、平成29年12月に神奈川・青森両フィールドに対して詐欺脆弱性調査対象者の依頼を行い、平成30年3月には詐欺脆弱性質問紙(健常高齢者版)を完成し印刷後に両フィールドに送付する。平成30年4月に秋田県立大学人を対象と

した研究実施計画審査へ申請し、平成30年4月より8月の間に両フィールドで調査を実施する。平成30年9月より11月の間に調査データの分析を行う。一方、詐欺脆弱性診断マトリクスをICTツールとして実装するために、平成29年12月に実装グループで仕様の策定と業者の選定等の打ち合わせを行う。その後、平成30年2月に入札を行い開発業者の決定に至る。

- (4) 詐欺脆弱性診断マトリクス（認知機能低下高齢者版）の完成。（認知機能低下高齢者対応グループ）

(3)において作成した詐欺脆弱性質問紙（健常高齢者版）を参考に、認知機能の低下が疑われる高齢者でも補助者の下で回答可能な質問項目を選択した認知機能低下高齢者版を作成する。その後、これらの項目と詐欺脆弱性との関連性について検討する。

- (5) 詐欺脆弱性関連認知機能評価法の完成。（認知機能低下高齢者対応グループ）

(4)で選択した質問項目で測定される認知機能の検査値と詐欺脆弱性との関連性を検討し、詐欺脆弱性診断のアルゴリズムを作成する。最終的には、3)～5)の成果を全て含めて詐欺脆弱性診断マトリクスを完成する。

- (6) 各フィールドにおいて地域連携ネットワークの構築。（実装グループ）

神奈川フィールドではシニア消費者見守り倶楽部を中心とした市民ボランティア型の活動を、また、青森フィールドでは地域連絡協議会立ち上げを目指す連絡協議会型の活動を行う。

- (7) 健常高齢者対応グループ、認知機能低下高齢者対応グループ、実装グループにおける研究開発の結果判明した法的課題の整理。（個人情報検討・政策提言グループ）

プロジェクト開始から1年半のこの時期は、既述したように詐欺脆弱性調査の実施と両実装フィールドにおける地域連携ネットワークの構築が主な活動になる。高齢者の個人情報の保護と共有という矛盾する問題が出て来ることが予想されるので、個人情報検討・政策提言グループで検討を行う。

2 - 3. 実施内容・結果

(1) 実施内容

今年度の到達点①

詐欺脆弱性判定ツール作成のための準備を行う。

実施項目①-1：詐欺脆弱性質問紙（健常高齢者版）の完成

（平成30年3月、健常高齢者対応グループ、認知機能低下高齢者対応グループ）

実施内容

平成29年度は詐欺脆弱性質問紙（健常高齢者版）の作成を行った。

プロジェクト発足にあたり、平成29年10月22日に全体ミーティングを開催し、プロジェクト全体の実施に関する情報交換と実施内容の確認等実施した。この時に健常高齢者対応グループ及び認知機能低下高齢者対応グループの実施者で質問紙を構築し、調査を実施した。

平成30年度に認知機能低下高齢者対応グループでは、認知機能が低下した高齢者と健常高齢者を対象にした調査を予定している。このため、グループ代表者の上野が所属する京都府立医科大学医学倫理審査委員会に倫理申請書類を提出した。（京都府立医科大学医学研究倫理審査の申請書提出）詐欺脆弱性判定ツール（認知機能低下高齢

者版) 作成のための調査項目に関する協議をグループメンバーで実施した。協議を経て作成された調査項目に関して、京都府立医科大学附属病院に来られたボランティアを対象に予備調査を実施した。(詐欺脆弱性判定ツール作成の準備)

実施項目①-2: 詐欺脆弱性判定ツールソフト、アプリ作成準備
(平成29年12月及び平成30年3月、実装グループ)

実施内容

詐欺脆弱性判定ツールは最終的にICTツールとして実装される。詐欺脆弱性判定ツールの開発は平成30年度に行う予定であるが、平成29年12月に実装グループリーダーの澁谷と同グループの実施者小久保 (ICTシステムの構築担当) を中心に策定した仕様書に基づき、平成30年3月に入札を実施し、開発業者 (リバティイノベーション) を決定した。現在、詐欺脆弱性判定ツールの開発の具体的な話し合いを開始している。

実施項目①-3: 高齢者の生活実態と詐欺脆弱性調査の実施
(平成30年1月、健常高齢者対応グループ)

実施内容

「採択に際しての留意点」で、高齢者の詐欺に対するセルフディフェンス力強化のためには、高齢者の生活全般に対する目配りを行い生活全般の改善も重要であることを指摘された。これに対して、留意点に対する回答において、平成30年度実施の詐欺脆弱性質問紙調査において高齢者の生活実態をあぶり出せる質問項目を加えること、及びその分析結果を神奈川・青森両フィールドにおける活動へ反映させる旨回答した。ところが、高齢者の生活実態のいかなる側面が詐欺脆弱性と関連するのかについてはほとんど先行研究がないのが実情である。

そこで、高齢者の生活実態と詐欺脆弱性との関連性の調査を、秋田市シルバー人材センター会員96名及び青森市シルバー人材センター会員70名を対象に行った。調査時期は、秋田市が平成30年2月20日、22日、26日で、青森市が平成30年3月14日、19日であった。調査は、詐欺脆弱性調査と認知症検査から構成され、高齢者の生活実態に関する質問項目は前者に含まれた。詐欺脆弱性調査質問項目は、デモグラフィック項目 (問1～問6)、視力 (問7)、聴力 (問8)、物忘れ (問9)、IADL (手段的日常生活活動) (問10)、認知的構造欲求 (問11)、自己効力感尺度 (問12)、孤独感 (UCLA) (問13)、抑うつ (CES-D) (問14)、ソーシャルサポート (問15)、詐欺脆弱性尺度 (問16)、意思決定方略 (問17)、批判的思考態度改訂版 (問18)、詐欺脆弱性尺度改訂版 (Theory of Mind & social cue、Signal detection theory) (問19)、詐欺被害の体験の有無 (問20)、振り込め詐欺等の体験の報告 (自由記述) から構成された。一方、認知症検査は対面によって行われ、質問項目は誕生年月日、学歴、利き手、聴力、視力、RBMT (直後再生)、SDMT (Symbol Digital Modalities Test)、CDT、MMSE (年齢、日時の見当識、場所の見当識、即時再生、計算問題、文章反復、3段階命令、読字、遅延再生、物品呼称、書字、図形模写)、RBMT (遅延再生) であった。

今年度の到達点②

地域連携ネットワークの構築のための準備

実施項目②-1：両フィールドでのプロジェクト開始の広報（実装グループ）

実施内容

神奈川フィールドでは最初に活動拠点の確保を行う（平成29年10月）。その後、ホームページの作成（平成29年11月改訂版公開）、活動パンフレットの作成（平成29年12月）によって、プロジェクトの周知を図った。併せて、地域防犯連絡所の防犯パトロール隊員及び女性防犯指導員に次年度実施予定の活動実態と意識調査協力の依頼を行った（平成30年3月）。

青森フィールドでは青森県警察本部、青森市ほか県内協力機関にプロジェクトへの協力依頼を行い、その後、連絡協議会立ち上げに関する打ち合わせ等を行った（平成29年10月～平成30年3月）。

実施項目②-2：両フィールドの連携会議開催（実装グループ）

実施内容

神奈川・青森実装フィールドがスムーズな連携を実施するため、両実装フィールドを主幹する澁谷と岩田等が、プロジェクトの会議などで会う機会を利用し、両フィールドの連携打ち合わせを3回実施した（平成29年10月30日、平成30年1月22日、2月7日）。

実施項目②-3：キックオフ・シンポジウム

（平成30年2月7日、実装グループ青森フィールド）

実施内容

プロジェクト開始後3ヶ月が経過して、それぞれの実装フィールドでプロジェクトの周知も図られたと思われる時期に、一般人を対象にプロジェクト全体の説明、両フィールドにおけるプロジェクトの進捗状況、協力機関などからの報告、各実装フィールドにおける課題の発掘及び展望、そして地域からの要望について議論するシンポジウムを開催した。

実施項目②-4：サポーター養成講座と高齢者団体等への啓発講座開催

（平成30年3月、実装グループ神奈川フィールド）

実施内容

詐欺情報を伝達する役割を担うサポーター養成講座（平成30年3月19日）を地域警察署内で開催した。高齢者団体に対しての啓発講座は、座間警察署以外に座間市相模が丘地区自治会連合会の協力が得られ、地域市民を対象とした講座内容に変更し開催した（平成30年3月9日）。

サポーター養成講座は、これまでの団体が行ってきた知識や情報伝達を主にする形式ではなく、参加者主体の講座としどのような手法で高齢者にアウトリーチしていくかなどの課題を共に考えていくワークショップ形式とした。

高齢者講座については、セルフディフェンス力を高める手法として、より多くの市民に参加してもらうためクイズや落語家による防犯落語などの楽しさで動員を図り、クイズ、ビデオや落語など視聴覚と疑似体験から手口と対処法を学ぶ講座内容とした。当

初、自身の脆弱性を把握してもらうためのテスト（PJ で実施する健常者用質問紙から問題を抜粋）を予定していたが、この内容での動員は厳しいと判断し変更した。

実施項目②-5：地域警察署及び団体と連携した活動（追加項目）

（実装グループ神奈川フィールド）

実施内容

サポーター募集や養成講座の実施は、時間や動員・集客の課題があるため、既存団体の活動を活性化させ、地元を知る団体と連携することで地域活動をより効率良く行うことを目的として、並行して地域の警察署と防犯団体（相模原南区警察署と南区防犯指導員）と共に連携した活動を実施した。

今年度の到達点③

小賀野プロジェクトとの連携構築を行い成果の継承を図る。

実施項目③-1：小賀野プロジェクトとの連携会議開催

（平成29年11月、健常高齢者対応グループ、認知機能低下高齢者対応グループ、実装グループ、個人情報検討・政策提言グループ）

実施内容

過去2年間に渡って活動してきた小賀野プロジェクト「高齢者の安全で自律的な経済活動を見守る社会的ネットワークの構築」と本プロジェクトは親和性が高い。そこで、「採択に際しての留意点」で指摘されたように、小賀野プロジェクトとの連携会議を開催した。この会議では、これまでの小賀野プロジェクトの成果を踏まえ、どのような連携が可能か、両プロジェクト間で共通課題にはどのようなものがあるか等、今後のプロジェクトを進める上で示唆を得るための情報交換を行った。

今年度の到達点④

実装グループ神奈川フィールドにおける実践研究を開始する。

実施項目④-1：実践研究の準備（実装グループ神奈川フィールド）

実施内容

神奈川フィールドでの実践活動に加え、研究に結実する活動としてボランティア参加者に参加動機などヒアリングを行った。「援助活動の個人特性と動機づけ—高齢者の詐欺被害等の見守りボランティア活動を通じて(仮称)—」のテーマでの研究を目指す。このためプロジェクトの活動を可能な限り記録保存した。

今年度の到達点⑤

消費者安全法を中心とした現状の課題の整理

実施項目⑤-1：現状の課題の整理（個人情報検討・政策提言グループ）

実施内容

本研究の推進に向けた消費者安全法、個人情報保護法等の法政策上の課題を検討するため、消費者安全法等に関する文献調査やWeb調査を行った。

今年度はこれら調査と、実装グループ内での課題抽出を優先したことや、日程調整の都合等から、地域協議会設置自治体へのヒアリングに関しては、平成30年度に重点的に実施することとした。

(2) 成果

今年度の到達点①

詐欺脆弱性判定ツール作成のための準備

実施項目①-1：詐欺脆弱性質問紙（健常高齢者版）の完成（平成30年3月、健常高齢者対応グループ、認知機能低下高齢者対応グループ）

成果：

- ・平成29年10月22日に全体ミーティングを開催し、健常高齢者対応・認知機能低下高齢者対応両グループの実施者で質問紙の設計に関して打ち合わせを行った。
- ・健常高齢者対応グループを中心に神奈川・青森両フィールドに対して平成30年度に実施予定の詐欺脆弱性調査対象者各500名の依頼を行い（平成29年12月）、質問項目の選定を継続し平成30年年度の実施に向けて最終質問票の構築を行なっているが、平成30年1月に秋田で実施した調査の分析に時間を要しているため、予定より遅れている。
- ・詐欺脆弱性判定ツール（認知機能低下高齢者版）作成のための調査項目に関するグループメンバーとの協議及び予備調査を実施した。その結果、調査項目を概ね確定した。調査項目は基本属性、認知機能検査、詐欺脆弱性尺度である。
- ・グループ代表者の上野が所属する京都府立医科大学医学倫理審査委員会に倫理申請書類を提出した。その結果、平成30年4月19日に承認された。迅速審査であったものの、提出してから概ね3か月かかることが分かった。

実施項目①-2：詐欺脆弱性判定ツールソフト・アプリ作成準備

（平成30年2月～3月、実装グループ青森フィールド）

成果：青森フィールドでは、詐欺脆弱性判定ツール作成を委託するための委託先を選定するために入札を実施し、青森大学の規定に従いリバティ・イノベーションを委託先に決定した。仕様書に示された内容で、特殊詐欺判定ツールの仕様・内容及び作成スケジュールの確認を行い、作成委託契約を締結し、開発に向けた具体的な話し合いを開始した。

実施項目①-3：高齢者の生活実態と詐欺脆弱性調査の実施

（平成30年1月、健常高齢者対応グループ）

成果：

平成30年2月に秋田市で、また3月に青森市で調査を行った。今回の調査に対する回答データの特徴として、まず挙げられるのは、特に秋田で収集したデータにおける欠測値の多さであった。これは手続き上の問題とは考えにくく、高齢回答の特徴が表れたと言えると思う。回答者96名中、欠測値がない者が25名存在した。従って、残りの71名は欠測値を示すが、これらが示す欠測値パターンは55パターンであった。この55パタンのうち、そのパターンに該当するものが1名のみ存在するパターンは、49個あった。即ち、96名中49名がそれぞれ異なる各自の欠測パターンを示していることになる。

このように、ほとんどの回答者が欠測値を示さないが、質問項目に依存して少数の回答者が欠測値を示す場合には、欠損値を示す少数の者の欠測傾向（missing

propensity) を仮定するアプローチが有効であると思われる。

更に、もし欠測値を除外するとすれば、欠測値を示す対象者に関して今後予定しているtaxometric分析を行うことができず、分類が不可能になることが予想される。このような好ましくない状態を避けるために、回答指示行列 (response indicator matrix) の情報を利用した欠測値の代入を試みる予定である。

このようにして代入されたデータに対して、青森市で収集されたデータも含め taxometric分析を始めその他の統計分析を行う。まだデータ分析の途中であり、まだ明確な結論には至っていないが、青森市でのデータには欠測値が少なく信頼性が置けるため、今後予定している本調査の質問項目選定に道筋を付けたいと思う。

今年度の到達点②

地域連携ネットワークの構築のための準備

実施項目②-1：両フィールドでのプロジェクト開始の広報

(実装グループ)

成果：

- ・神奈川フィールドでは相模原市に活動拠点としての研究実施場所を確保 (平成 29 年 10 月)。
- ・神奈川フィールド社団ホームページを改訂 (平成 29 年 11 月)。
URL: <http://www.scmimamoriclub.org/>
- ・青森・神奈川両フィールドにおいて、活動パンフレットを作成し、協力団体及び一般人にプロジェクトの周知活動を開始した。青森におけるシンポジウム、プロジェクトに関するマスメディアの報道などもあり、一般の方々にも認知される機会が提供され、一定の成果があった (平成29年12月～)。
- ・神奈川フィールドにおいて、地域防犯連絡所の防犯パトロール隊員及び女性防犯指導員に次年度実施予定の活動実態と意識調査協力の依頼を行った (平成 30 年 3 月)。その結果、地域により構成員に差異があり、研究内容と共に依頼方法や依頼先をさらに検討していく必要があることが明らかとなった。
- ・青森フィールドでは、県内協力機関へプロジェクトの紹介及び実装への協力を依頼した。その後、連絡協議会立ち上げに関する説明等を実施し、次年度に向けて前向きな姿勢が醸成され、次年度には連絡協議会の立ち上げの実施に着手できる環境が整ってきた (2-3. 会議等の活動、(3) 青森実装グループ関係参照)。

実施項目②-2：両フィールドの連携会議を開催

(実装グループ)

成果：青森・神奈川両フィールドの連携会議では、プロジェクトへの協力機関との連携の強化の方策、活動記録の作成、青森フィールドにおけるサポーター養成講座の実施、当該プロジェクト全体の活動をそれぞれのフィールドで公表するシンポジウムの開催などについての情報交換、今後の予定などについて打ち合わせを行った。情報交換の内容は、両フィールド連携会議メモとして記録した。成果として、両フィールド間の社会的背景の相違や住民の行動パターンの相違が大きく、同様のイベントを実施するに当たっては、異なるアプローチが必要であることから、お互いの役割を理解し、計画に記載されているように、それぞれの計画に沿った活動を展開する必要性を再

認識できた。

実施項目②-3：キックオフ・シンポジウムを開催（実装グループ青森フィールド）

成果：平成30年2月7日に青森市において、一般の方々を対象に、キックオフ・シンポジウムを開催し、当該プロジェクトの全体説明及び協力機関の取組等について発表した。新聞・テレビなどのメディアに取り上げられ、当該プロジェクトの認知度が向上した。また、青森県警、青森県消費者協会などの協力機関の参加が得られ、今後のプロジェクトの円滑な展開が期待される。



実施項目②-4：サポーター養成講座と高齢者団体等への啓発講座開催
（実装グループ神奈川フィールド）

成果：高齢者への啓発講座は、座間警察署以外に座間市相模が丘地区自治会連合会の積極的な協力により、対象を高齢者団体から地域住民に変更し実施した。地域の社会福祉協議会活動員や民生委員、及び市長からの協力を得た。大勢の参加（91人）があり、参加者の87.9%が70歳以上と詐欺被害のターゲット層であったことや、アンケートの結果からも提供すべき対象者に最新の手口等情報提供を行うことができた。

表1 高齢者啓発講座参加者年代別一覧表（男性44名、女性47名、合計91名）

年代	40代	50代	60代	70代	80代	不明	合計
男性	1	1	7	19	8	8	44
女性	1	2	5	12	26	1	47
合計	2	3	12	31	34	9	91



今回の盛況は、落語家を招いたことで住民の関心が高まったことや徒歩圏単位での小規模な企画が自治会の協力を得やすかったことが奏功したと考える。

参加者にアンケートを実施した結果から一部抜粋（N=85）。①振り込め詐欺などの電話が掛かってきたことがある - 49.4%、②振り込め詐欺などの被害に遭いそうになったことはある - 20%、③強引な訪問販売や電話勧誘がこれまでにある - 48.2%。

詐欺情報を伝達する役割を担うサポーター養成講座（平成30年3月19日）を活動地域警察署内で開催した。参加者からは、疑似体験しながら学ぶ予防訓練の実施等、防止活動への様々な意見提案があった。

サポーター研修内容
① 県内の特殊詐欺被害の現状
② だまされる心理
③ 活動の必要性
④ 具体的な活動について

参加人数：県内各地からの参加者6名と県警関係者

実施項目②-5：地域警察署及び団体と連携した活動（追加項目）

（実装グループ神奈川フィールド）

成果：地域連携ネットワークの構築には、地域団体と活動することが有効であると考え、相模原南警察署及び地区防犯指導員と連携した啓発活動を開始した。地元で長年活動を行っている団体との連携は、効率的であり関係構築の近道であると考え。

今年度の到達点③

小賀野プロジェクトとの連携構築を行い成果の継承を図る。

実施項目③-1：小賀野プロジェクトとの連携会議開催

（平成29年11月、健常高齢者対応グループ、認知機能低下高齢者対応グループ、実装グループ、個人情報検討・政策提言グループ）

成果：

この会議では、これまでの小賀野プロジェクトの成果を踏まえ、どのような連携が可能か協議した。平成29年11月12日に府中グリーンプラザ 第5会議室で小賀野PJとの連携のため最初のミーティングを行った。このミーティングには、RISTEXより6名、小賀野PJより3名、渡部PJより5名が参加した。ミーティングでは、主にこれまでの小賀野PJの活動内容について説明を受けた。判断能力の低下した者や認知症の者の判断能力や経済調査の件、それらの者への法的対応などについて説明があった。その後、渡部PJの内容について説明した。渡部PJ開始後間がないため、具体的な連携の形がまだ見えていない時期であったが、今後も連携の話し合いを継続することで合意した。

今年度の到達点④

実装グループ神奈川フィールドにおける実践研究を開始する。

実施項目④-1：実践研究の準備（実装グループ神奈川フィールド）

成果：ボランティア活動員の意識調査に向け、活動に参加したサポーターから参加動機の聞き取りを行い、次年度実施予定の研究計画の仮説や質問紙構成の準備を進めている。しかしながら、数名にヒアリングした段階であり平成30年度の倫理申請に向け、さらに多くのヒアリングを行い、その結果から本調査に向けた仮説や研究計画を検討していく。

今年度の到達点⑤

消費者安全法を中心とした現状の課題の整理。

実施項目⑤-1：現状の課題の整理（個人情報検討・政策提言グループ）

成果：

文献調査やWeb調査により、研究提案時点から消費者安全法の地域協議会設置自治体が増加していることを含め、事例複数の情報が得られた。これらの内容の整理状況とヒアリング対象自治体との日程調整等の状況を勘案し、本年度は、実装グループ内での課題抽出と、文献等情報の整理を深めることとし、ヒアリングに関しては平成30年度に重点的に行うこととした。児童福祉法に基づく要対協は地域協議会の類似事例で比較的成功したものであると考えられるが、消費者安全法の地域協議会はそれに比して必ずしもうまく行っていないようであることがわかった。

（3）当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

本プロジェクトで形成される新しい「間」（＝しなやかな紐帯）において行われる活動を通じて以下の波及効果が得られる。

1) 詐欺脆弱性判定ツールを用いたセルフディフェンス力を高める消費者教育

詐欺脆弱性判定ツール開発のため、高齢者の詐欺脆弱性を測定する調査を終了した。また、詐欺脆弱性判定ツール開発の委託会社を選定し、次年度からツールの開発に着手する準備が整った。

2) 青森大学の学生に対する消費者教育（青森フィールド）

青森フィールドの中心的存在である青森大学の学生は青森実装フィールドの活動補助として参画したが、学生を対象とした消費者教育講座の開講は、協力団体との協働及び教育内容の整理に時間を要したため、来年度に実施することとした。

3) 他のプロジェクトとの相互貢献

採択に際しての留意点で指摘されたように、小賀野プロジェクトとの連携会議を開催し、共通の問題の発掘や成果の継承を図る。また、平成30年度に連携会議を開催し、どのような形の連携が可能であるか相談する。

(4) スケジュール

実施項目	平成29年度 (H29. 10～ H30. 3)	平成30年度 (H30. 4～H31. 3)		平成31年度 (H31. 4～H32. 3)	平成32年度 (H32. 4～ H32. 9)
			マイルストーン		
1. 健常高齢者用の詐欺脆弱性質問紙の作成	←→		↑	←→	←→
2. 認知機能低下高齢者用の詐欺脆弱性検査の作成	←→		↑	←→	←→
3. 詐欺脆弱性診断マトリクスの実装及び改良				←→	←→
4. 地域連携ネットワークの構築	←→	青森フィールド	↑	←→	←→
		神奈川フィールド	↑	←→	←→
5. 政策提言	←→			←→	←→

2 - 4. 会議等の活動

(1) プロジェクト全体会議関係

年月日	名称	場所	概要
2017.10.1	キックオフミーティング	JST東京本部	平成29年度採択PJの紹介
2017.10.22	プロジェクト全体会議	イオンコンパス東京八重洲会議室	PJの今後の進行スケジュールの協議
2017.11.12	小賀野PJとの連携会議	府中グリーンプラザ	小賀野PJと渡部PJの概要説明と今後の連携のあり方について
2017.11.12 ～13	領域合宿	ホテルコンチネンタル	領域の成果創出に向けPJに横断する領域全体の課題の検討
2017.12.11	詐欺脆弱性項目尺度の検討	Skype	特殊詐欺脆弱性予備調査に用いる質問項目の検討
2018.1.22	詐欺被害対策への打合せ	神奈川県警察本部	PJの説明及び神奈川県警の取り組みと現状について
2018.2.07	プロジェクト全体会議	青森国際ホテル	H29年度の活動の反省及び来年度の活動計画について

(2) 認知機能低下高齢者対応グループ関係

年月日	名称	場所	概要
2017.11.6	調査に関する打ち合わせ	京都府立医科大学	詐欺脆弱性尺度の項目、倫理審査書類、調査方法について打ち合わせを行った。
2018.1.16	アウトリーチに関する相談	大阪大学大学院人間科学研究科附属未来共創センター	未来共創センターのアウトリーチ活動の概要と活動についてご教示いただいた。

(3) 青森フィールド関係

年月日	名称	場所	概要
2017.10.31	青森市高齢福祉課との打合せ	青森市高齢福祉課	RISTEX PJ 採択の報告と説明及び福祉部長への取り次ぎのため
2017.10.31	青森県消費者協会（消費生活センター）との打合せ	青森県消費生活センター	RISTEX PJ 採択の報告と説明及び青森県消費者協会への取り次ぎのため
2017.11.1	青森県生活協同組合連合会との打合せ	青森県生活協同組合連合会事務局	RISTEX PJ 採択の報告と説明及び理事会への取り次ぎのため
2017.11.21	青森市・青森大学連携推進会議	青森市役所 2 階会議室	青森市への RISTEX PJ 採択の報告と説明のため
2017.11.27	青森県警察本部との打合せ	青森県警察本部会議室	RISTEX PJ 採択の報告と今後の一層の協力を得るため
2017.11.27	青森県企画政策部との打合せ	企画政策部企画調整課	RISTEX PJ 採択の報告と説明のため
2017.12.8	青森市社会福祉協議会との打合せ	青森市社会福祉協議会事務局	RISTEX PJ 採択の報告と説明及び今後の連携等について
2017.12.9	青森県生活協同組合連合会合同会議	青森保健生協 協立クリニック会議室	RISTEX PJ 採択の説明及びシンポジウムで同組合の活動報告と今後の連携協力等を依頼のため
2017.12.23	認知機能検査実施手法指導受講	青森大学 761 研究室	健常高齢者に対する認知機能検査実施のための手法等について指導を受けるため
2018.1.11	広報活動	青森県中小企業家同友会事務局	RISTEX PJ 採択の説明及びシンポジウム開催案内について
2018.1.11	広報活動	青森市高齢福祉課	シンポジウム開催案内及び今後の連携について
2018.1.11	広報活動及びシンポジウムの依頼	青森県消費生活センター	シンポジウム開催案内及びシンポジウム依頼のため
2018.1.11	広報活動及びシンポジウムの依頼	青森県生活協同組合連合会事務局	シンポジウム開催案内及びシンポジウム依頼のため
2018.1.12	広報活動	青森大学 761 研究室	青森市幸畑団地連合会会長に RISTEX PJ 採択の説明及びシンポジウムへの参加と今後の連携について
2018.1.12	青森県消費者協会（消費生活センター）との打合せ	青森県消費生活センター	シンポジウムにおける青森県消費生活センターの広報活動（配布資料、着ぐるみ等）の打合せ
2018.1.16	青森県警察本部との打合せ	青森県警察本部会議室	シンポジウムへの担当官派遣のお礼と神奈川県警本部との打合せのための青森県内の詐欺被害状況等の情報収集
2018.1.18	広報活動	青森市社会福祉協議会	シンポジウム開催案内及び民生

		会事務局	委員参加の依頼のため
2018.1.23	青森県消費者協会との打合せ	青森県環境生活部 県民生活文化課	青森県消費者協会シンポジストとの打合せ
2018.1.23	青森県生活協同組合連合会との打合せ	青森県生活協同組合連合会事務局	シンポジストとの打合せ及び今後の連携について
2018.1.29	広報活動	青森中央学院大学地域連携センター	RISTEX PJ 採択の説明及びシンポジウム開催案内
2018.2.7	シンポジウムの開催	青森市アウガ AV 多機能ホール	第1回 RISTEX シンポジウム 2018 を開催し、一般市民等へ広報・周知を図るため
2018.2.8	青森市との打合せ	青森市高齢福祉課	第1回 RISTEX シンポジウム 2018 開催へのお礼及び今後の連携について
2018.2.9	青森県消費者協会・青森大学連携推進会議の打合せ	青森県消費生活センター	第1回 RISTEX シンポジウム 2018 への参加お礼及び今後の連携について
2018.2.9	青森市社会福祉協議会との打合せ	青森市社会福祉協議会事務局	第1回 RISTEX シンポジウム 2018 開催へのお礼及び今後の連携について
2018.2.9	秋田県立大学学生への指導	秋田県立大学	健常高齢者への認知機能検査実施のための学生に手法等を指導
2018.3.1	青森県警察本部との打合せ	青森県警察本部会議室	警察庁との打合せ会議への対応のための情報収集等
2018.3.2	青森県生活協同組合連合会合同会議	青森保健生協 協立クリニック会議室	第1回 RISTEX シンポジウム 2018 への参加お礼及び今後の連携について

※上記以外に青森実装グループ打合せ会議を14回開催

(4) 神奈川フィールド

年月日	名称	場所	概要
2017.10.27	座間市「振込め詐欺防止対策会議」	サニープレイス座間講習室	座間市全体での振り込め詐欺対策に向けて
2017.11.9	県警察本部との打合せ	神奈川県警察本部生活安全総務課	PJ 採択の報告と今後の被害防止活動の一さぎ隊プロジェクトについて
2017.11.21	相模原南警察署との打合せ	相模原南警察署	の一さぎ隊プロジェクト企画について連携を図るため
2017.11.24	大和警察署との打合せ	大和警察署	の一さぎ隊プロジェクト企画について連携を図るため
2017.12.1	相模原南防犯協会会長との打合せ	相模原南防犯協会会長事務所	の一さぎ隊プロジェクト企画について連携を図るため
2017.12.4	県警察本部・大和警察署との打合せ	大和警察署	の一さぎ隊プロジェクトの課題について検討のため
2017.12.21	相模原南区防犯協会・指導員・警察署と連携活動会議	相模原市南区役所	相模原市南区詐欺被害防止の活動について連携を図るため
2017.12.23	座間市相模が丘自治会連合会	相模が丘コミュニティセンター	高齢者の啓発講座イベント開催への協力依頼
2018.1.16	県警本部、大和警察署及び地銀との打合せ	地銀支店 2F 会議室	「の一さぎ隊」の活動について概要説明と協力を得るため

2018.1.30	相模原南区防犯活動	小田急線小田急相模原駅	防犯指導員及び警察署と連携した「の一さぎ隊」活動の実施
2018.2.13	座間市長、市民協働課との面談	座間市長室	社団の取り組みや座間市の詐欺対策について
2018.2.19	相模原市消費生活総合センターとの打合せ	相模原市消費生活総合センター	社団の活動と消費生活センターの活動の連携について
2018.2.19	相模原市南区役所との打合せ	相模原市南区役所地域振興課	安心安全まちづくり協議会の立ち上げについて、講演等について
2018.2.22	座間市社会福祉協議会・地域包括支援センター	相模が丘コミュニティセンター大ホール	地域協議体(仮称)、地区の高齢者の見守りを検討
2018.3.7	座間市相模が丘民生委員・児童委員への挨拶と活動紹介	座間市北地区文化センター	地区民生委員・児童委員への挨拶と活動紹介
2018.3.9	高齢者への啓発講座—地域連携活動	相模が丘コミュニティセンター大ホール	座間市相模が丘地区での啓発講座イベント(防犯落語)の実施
2018.3.19	の一さぎ隊プロジェクトの研修	地域警察署	地域警察署、県警本部と連携した研修を開催
2018.3.29	相模原南警察署との打合せ	相模原南警察署	相模大野駅での防犯活動の打ち合わせ
2018.3.30	座間警察署との打合せ	座間警察署	悪質勧誘・詐欺電話の予防訓練企画案について検討のため

※記載内容以外に打ち合わせ会議を8回開催

(5) 個人情報検討・政策提言グループ関連

年月日	名称	場所	概要
2018. 3. 22	打ち合わせ	沼田徹法律事務所	青森実装グループ・澁谷と、個人情報検討・政策提言グループ・藤田、沼田との間での今後の方針に関する打ち合わせ

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

平成26年6月に消費者安全法が改正され、高齢者の消費トラブルに対応する消費者安全確保地域協議会の組織を推奨し、情報交換や見守りが強化されているが、現状では消費者安全確保地域協議会の組織化が行われている自治体は全国1718自治体中わずか66自治体に止まっている(平成30年1月末日現在。研究開発提案時点では31自治体)。

問題の重要性と限られた社会資源の有効活用の視点に鑑みると、ICTの効率的活用を図りつつ地域貢献を標榜する大学が地域協議会の連携を強化する役割を担い、また市民ボランティア等の見守る人材を育成することによって、被害防止と拡大防止に取り組むことが求められている。

本PJによって、健常高齢者のセルフディフェンス力が向上することにより、1) 高齢者

の自立に必要な資産を詐欺被害から守ることができ、自分の資産を豊かな生活のために使うことができる。

認知機能低下高齢者のセルフディフェンス力の向上により、2) 地域コミュニティで金銭の搾取がない生活を送ることができる。3) 専門のサポーターの継続的な活動によって、認知機能低下に起因する詐欺被害を防ぐことができる。

また、実装フィールドで予定している専門のサポーター育成プログラムの普及により、4) 地域連携ネットワークの中で活動する人材の確保により、個々の高齢者へのきめ細やかなアウトリーチが可能になる。

更に、ICTの利用及び認知機能データベース構築により、5) オーダーメイドの詐欺被害予防が可能になり、社会資源の利用が進む。6) アイテムバンク構築により、詐欺脆弱性の予測が可能になる。

以上により、中長期的には地域連携ネットワークの構築手法により、7) 社会資源が異なる地域においても本PJの普及が可能で全国的展開が可能になり、詐欺被害以外の日常に遍在する高齢者のリスク管理と被害予防にも汎用的に応用ができる。8) 高齢者だけでなく、詐欺に脆弱な子供にも本PJの仕組みを汎用できる。

4. 研究開発実施体制

(1) 健常高齢者対応グループ

① 渡部 諭(秋田県立大学総合科学教育研究センター、教授)

②-1 実施項目：健常高齢者用の生活実態と詐欺脆弱性調査の実施

グループの役割の説明：「採択に際しての留意点」で、高齢者の詐欺に対するセルフディフェンス力強化のためには、高齢者の生活全般に対する目配りを行い生活全般の改善も重要であることを指摘された。そこで、留意点に対する回答において、平成30年度実施の詐欺脆弱性質問紙調査において高齢者の生活実態をあぶり出せる質問項目を加える旨回答したので、平成30年1月に秋田市シルバー人材センター会員高齢者約200名を対象に調査を実施した。

②-2 実施項目：詐欺脆弱性質問紙（健常高齢者版）の完成

グループの役割の説明：平成29年10月8日または9日に全体ミーティングを開催し、健常高齢者対応・認知機能低下高齢者対応両グループの実施者で質問紙の設計に関して打ち合わせを行う。その後、健常高齢者対応グループを中心に神奈川・青森両フィールドに対して詐欺脆弱性調査対象者各500名の依頼を行い（平成29年12月）、質問項目の選定を継続し平成30年3月を目途に完成させ質問紙の印刷を行う予定であったが、②-1の分析が遅れているため、質問紙の印刷が遅れている。

②-3 実施項目：小賀野プロジェクトとの連携会議開催実施項目

グループの役割の説明：小賀野プロジェクト「高齢者の安全で自律的な経済活動を見守る社会的ネットワークの構築」と本プロジェクトは親和性が高い。そこで、「採択に際しての留意点」で指摘されたように、小賀野プロジェクトとの連携会議を開催する。特に、認知症高齢者が対象の小賀野プロジェクトの成果の中で、健常高齢者研究においてどのような成果が継承可能であるかについて検討する。

(2) 認知機能低下高齢者対応グループ

①上野大介（京都府立医科大学、助教）

②-1実施項目：認知機能低下高齢者用の詐欺脆弱性検査の作成

グループの役割の説明：本グループでは健常高齢者対応グループと情報交換をしながら、認知機能低下高齢者が実施可能な詐欺脆弱性診断マトリクス（認知機能低下高齢者版）を開発する。さらに、認知機能の低下があり、かつ詐欺脆弱性の高い高齢者を早期に見つけ出すため、詐欺脆弱性に関連する認知機能検査バッテリーを組み、詐欺脆弱性関連認知機能評価法を開発する。

②-2実施項目：詐欺脆弱性診断マトリクスの運用及び改良グループの役割の説明

グループの役割の説明：健常高齢者対応グループと連携して詐欺脆弱性診断マトリクスを開発し、実装グループに受け渡す。詐欺脆弱性マトリクスの開発過程では、実装グループと連携し、地域在住高齢者と実施者から使用感や質問項目の理解度に関するフィードバックを踏まえながら改良を実施する。

(3) 実装グループ

①-1 澁谷泰秀(青森大学社会学部、教授)

①-2 研究開発実施機関：青森大学、一般社団法人シニア消費者見守り倶楽部

②-1 実施項目：詐欺脆弱性判定ツールソフト、アプリ作成準備

グループの役割の説明：ICTツールとしての詐欺脆弱性判定ツールのソフトウェア及びアプリの開発を行う。開発自体は平成30年度に行う予定であるが、今年度中に詐欺脆弱性判定ツールのソフトウェア及びアプリの仕様の策定と業者の選定を行う。平成29年12月に実装グループリーダーの澁谷、小久保及び角田（ITCシステムの構築担当）を中心に打ち合わせを行い、平成30年2月～3月に入札及び開発業者の選定を行い、詐欺脆弱性判定ツールソフト、アプリ作成の契約を締結した。

②-2 実施項目：両フィールドでのプロジェクト開始の広報

グループの役割の説明：神奈川フィールドでは最初に活動拠点の確保（平成29年10月）、ホームページの作成（平成29年11月）、活動パンフレットの作成（平成29年11月）によって、プロジェクトの周知を図る。併せて、防犯パトロール隊員、女性防犯指導員に次年度予定の活動実態と意識調査協力依頼を行う（平成30年3月）。青森フィールドでは協力機関へプロジェクトへの協力依頼を行うとともに、連絡協議会立ち上げに関する打ち合わせを進めた（平成29年10月）。

②-3 実施項目：両フィールドの連携会議開催

グループの役割の説明：神奈川・青森両フィールドが今後連携して情報交換や交流を行うことができるように、実装グループリーダーの澁谷が上京し両フィールドの連携会議を開催する。この時期はプロジェクトを開始して1ヶ月に当たるため、この間の情報交換を行い、今後も両フィールド間のコンセンサスを図っていく。

②-4 実施項目：キックオフ・シンポジウム

グループの役割の説明：プロジェクト開始後3ヶ月が経過してプロジェクトの周知も図られたと思われる時期に、両フィールドにおける課題の発掘及び展望、そして地域からの要望について語り合うシンポジウムを青森フィールドで開催する。両フィールドの実施者が集合するが、可能であれば自治体や警察関係者からのシンポジストも依頼したいと思う。

②-5 実施項目：サポーター養成講座の実施と高齢者団体等への啓発講座開催

グループの役割の説明：神奈川フィールドで活動実績のあるシニア消費者見守り倶楽部（本プロジェクトの実施機関、代表理事：岩田美奈子）の経験によれば、高齢者が悪徳消費者被害に遭う原因の一つに、詐欺情報が行き渡らないことによる意識の低さが挙げられる。そこで、詐欺情報を伝達する役割を担うサポーター養成講座の実施と共に、高齢者団体等に対しての被害防止ための啓発講座を開催する（平成30年3月）。

②-6 実施項目：小賀野プロジェクトとの連携会議開催

グループの役割の説明：小賀野プロジェクト「高齢者の安全で自律的な経済活動を見守る社会的ネットワークの構築」と本プロジェクトは親和性が高い。そこで、「採択 に

際しての留意点」で指摘されたように、小賀野プロジェクトとの連携会議を開催する。特に、小賀野プロジェクトの実装のノウハウを継承するため検討する。

②-7 実施項目：実装グループにおける実践研究を開始する

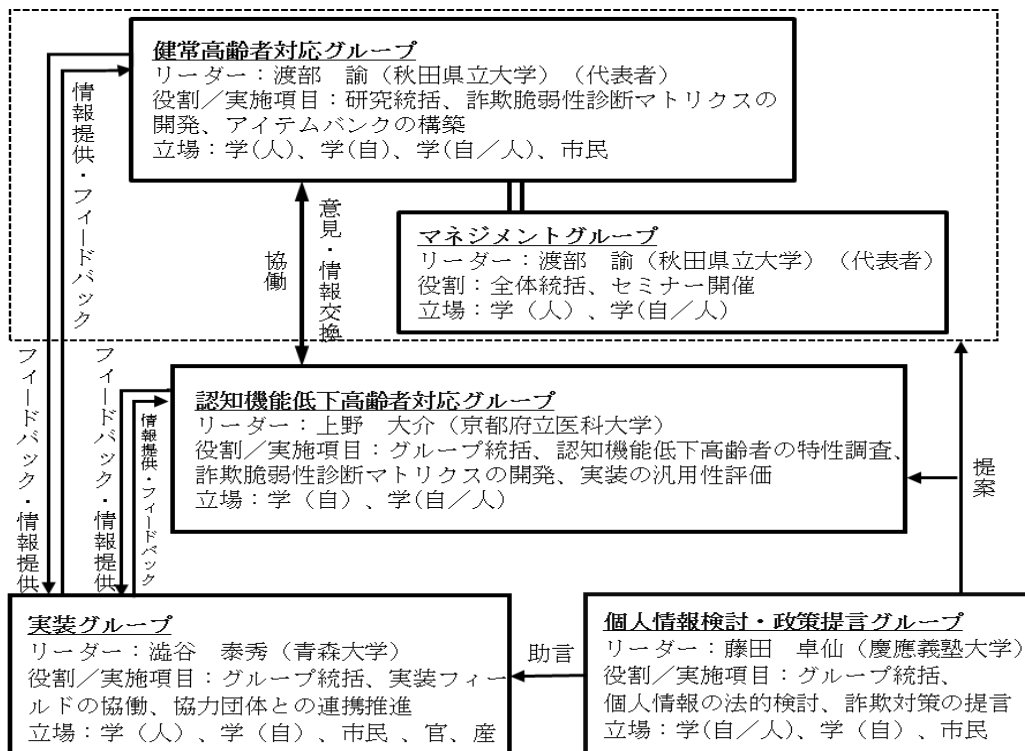
グループの役割の説明：総括面談時の指摘に従い、神奈川フィールドでの実践活動に加え、研究に結実する活動も行う。「援助活動の個人特性と動機づけー高齢者の詐欺被害等の見守りボランティア活動を通じてー」のテーマでの研究を目指す。このためプロジェクトの活動を可能な限り記録保存する予定であったが、警察関係や自治体の会議等は、先方の要望で録画・録音ができない場合が多かった。しかし、シンポジウムやサポーター育成講座などでは録画・録音の記録を残すことができた。今後も研究データの収集の視点から記録を残していく予定である。

(4) 個人情報検討・政策提言グループ

① 藤田卓仙(慶應義塾大学医学部、特任助教)

② 実施項目： 政策提言

グループの役割の説明：地域連携ネットワークでの情報共有に際しての個人情報保護上の課題等、他グループにおいて判明した法的課題に関する解決方針の検討を行う。法・政策的見地から、本プロジェクトの社会実装・展開に向けた検討を行い、政策提言を行う。



研究開発実施体制の構成図

5.研究開発実施者

健常高齢者対応グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
渡部 諭	ワタナベ サトシ	秋田県立大学	総合科学教育センター	教授
楠見 孝	クスミ タカシ	京都大学	大学院教育学研究科	教授
片山 容一	カタヤマ ヨウイチ	青森大学	薬学部	特任教授
澁谷 泰秀	シブタニ ヒロヒデ	青森大学	社会学部	教授
吉村 治正	ヨシムラ ハルマサ	奈良大学	社会学部	教授
鈴木 護	スズキ マモル	岩手大学	人文社会学部	准教授
江口 洋子	エグチ ヨウコ	慶應義塾大学	医学部	研究員
上野 大介	ウエノ ダイスケ	京都府立医科大学	大学院医学研究科	助教
大工 泰裕	ダイク ヤスヒロ	大阪大学	大学院人間科学研究科	D1
藤田 卓仙	フジタ タカノリ	慶應義塾大学	医学部	特任助教

認知機能低下高齢者対応グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
上野 大介	ウエノ ダイスケ	京都府立医科大学	大学院医学研究科	助教
江口 洋子	エグチ ヨウコ	慶應義塾大学	医学部	研究員
堀田 章悟	ホッタ ショウゴ	慶應義塾大学	医学部	研究員
綾仁 信貴	アヤニ ノブタカ	京都府立医科大学	大学院医学研究科	学内講師
中村 佳永子	ナカムラ カエコ	京都府立医科大学	大学院医学研究科	助教(併任)
加藤 佑佳	カトゥ ユカ	京都府立医科大学	大学院医学研究科	助教
片山 容一	カタヤマ ヨウイチ	青森新都市病院	脳精神外科	(医師)

実装グループ(青森フィールド・神奈川フィールド)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
澁谷 泰秀	シブタニ ヒロヒデ	青森大学	社会学部	教授
船木 昭夫	フナキ アキオ	青森大学	社会学部	教授
宮川 愛子	ミヤカワ アイコ	青森大学	社会学部	専任講師
木原 博	キハラ ヒロシ	青森大学	社会学部	専任講師
角田 均	ツノダ ヒトシ	青森大学	ソフトウェア情報学部	教授
小久保 温	コクボ アツシ	八戸工業大学	工学部	教授
新谷 哲雄	アラヤ テツオ	青森大学		嘱託
岩田美奈子	イワタ ミナコ	一般社団法人シニア 消費者見守り倶楽部		代表理事

竹内知恵美	タケウチ チエミ	一般社団法人シニア 消費者見守り倶楽部		社員
林 保 宏	ハヤシ ヤスヒロ	一般社団法人シニア 消費者見守り倶楽部		パート社員

個人情報検討・政策提言グループ

氏 名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
藤 田 卓 仙	フジタ タカノリ	慶應義塾大学	医学部	特任助教
江 口 洋 子	エグチ ヨウコ	慶應義塾大学	医学部	研究員
堀 田 章 悟	ホッタ ショウゴ	慶應義塾大学	医学部	研究員
中 島 涼 子	ナカジマ リョウコ	慶應義塾大学	医学部	研究補助員
沼 田 徹	ヌマタ トオル	沼田法律事務所		弁護士

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

年月日	名称	場所	参加人数	概要
2018.2.7	第1回 RISTEX プロジェクト シンポジウム 2018	アウガ5階 AV多機能ホール (青森市)	100名	「高齢者の詐欺被害を防ぐしなやかな地域連携モデルの研究開発」- 高齢者の詐欺被害減少のための活動 -と題して開催し、一般市民等へ広報・周知した。
2018.3.9	「笑って得する詐欺対策」	座間市相模が丘 コミュニティセンター	91名	座間警察署、座間市相模が丘地区自治会連合会と連携し、詐欺の手口を市民に伝える啓発講座。落語家による防犯落語を盛り込み集客を図る。
2018.3.19	第1回サポーター/の一さぎ隊 研修	地域警察署内	6名 +関係者	県内の特殊詐欺被害の状況、だまされる心理、活動の必要性、具体的な活動とその注意点について、県警本部、警察署と共に研修を実施。

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍、フリーペーパー、DVD
・

(2) ウェブメディアの開設・運営、

- ・ (一社) シニア消費者見守り倶楽部のホームページ上に、当該プロジェクトの概要を広く紹介するための内容を作成し、2017年11月22日より発信を開始した。

<http://www.scmimamoriclub.org/>

- ・ 青森大学ホームページ上にプロジェクトの概要及び実装グループの活動状況等を一般市民に広く発信するために制作会社に作成を依頼し、公開予定である。

(3) 学会 (7-4.参照) 以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- ・ RISTEXシンポジウム「社会的弱者を支える個人情報情報の活用」にて講演・パネルディスカッション、2018年3月12日、フクラシア丸の内オアゾ15階 会議室C
- ・ 座間市安全安心まちづくり推進協議会及び座間防犯協会主催「振り込め詐欺防止対策会議」において「防犯対策講話」、2017年10月27日、座間市立総合福祉センター
- ・ 神奈川県くらし交通安全課主催「平成29年度安全・安心まちづくり交流集会」の基調講演、「あなたの声がけ・気づきが高齢者を守る - 詐欺被害防止の活動」、2018年2月5日、ホテル横浜ガーデン

6-3. 論文発表

(1) 査読付き (1 件)

●国内誌 (1 件)

- ・ 大工 泰裕・渡部 諭・岩田 美奈子・成木 迅・江口 洋子・上野 大輔・澁谷 泰秀,

詐欺被害防止のための取り組みの変遷と心理学の貢献可能性—米国における詐欺研究との比較を通して—, 対人社会心理学研究, 第18号, 平成30 (2018) 年, pp.179-188.

●国際誌 (0 件)

.

(2) 査読なし (1 件)

●国内誌 (1 件)

・ 渡部諭・岩田美奈子・上野大介・江口洋子・小久保温・澁谷泰秀・大工泰裕・藤田卓仙

高齢者の詐欺被害を防ぐしなやかな地域連携モデルの研究開発, 秋田県立大学ウェブジャーナルA: 地域貢献部門, Vol.5, 平成30 (2018) 年

●国際誌 (0 件) .

.

6-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

(1) 招待講演 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)

.

(2) 口頭発表 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)

.

(3) ポスター発表 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)

.

6-5. 新聞報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿 (7 件)

- ・ 東奥日報 H2018.01.16 高齢者詐欺被害防止連携テーマにシンポ(事前予告)
- ・ 東奥日報 H2018.02.07 特殊詐欺きょうシンポ(事前予告)
- ・ 東奥日報 H2018.02.08 RISTEX 採択のシンポジウム「高齢者の詐欺被害を防ぐしなやかな地域連携モデルの研究開発—被害減少のための活動」
- ・ 毎日新聞 2018.02.08 「カード手交型」詐欺激増
- ・ 毎日新聞 2018.02.10 青森で高齢者の特殊詐欺被害防止へシンポ「身近に相談できる人を、地域で見守るネットワークも」
- ・ タウンニュースさがみはら中央区版 2018.02.15 高齢者に録音機貸与 詐欺被害防止の一助に
- ・ タウンニュースさがみはら南区版 2018.02.15 高齢者に録音機貸与 詐欺被害の一助に

(2) 受賞 (0 件)

.

(3) その他 (0 件)

.

6-6. 知財出願

(1) 国内出願 (0 件)